

氏 名 _____

製品 M を量産するメイプル工場では、パーシャル・プランによる標準原価計算を採用している。次の資料にもとづいて、以下の各問に答えなさい。

【資料】

1. 当月の生産に関するデータ

当月製品完成量 ; 800 単位

月末仕掛品量 ; 200 単位 (1/2)

(注 1) () 内は加工進捗度である。

(注 2) 直接材料は工程を通じて平均的に投入される。

(注 3) 月初仕掛品はなかった。

2. 当月の実際発生額に関するデータ

直接材料費 ; 8,349,000 円 (実際消費量 4,600 kg)

直接労務費 ; 8,066,500 円 (実際直接作業時間 3,650 時間)

製造間接費 ; 5,084,500 円

3. 当月の標準と予算に関するデータ

直接材料費の標準消費価格 ; 1,800 円/kg

直接材料費の標準消費量 ; 5 kg/単位

直接労務費の標準消費賃率 ; 2,200 円/時間

直接労務費の標準直接作業時間 ; 4 時間/単位

製造間接費月次予算 ; 4,940,000 円

(注) 製造間接費は直接作業時間を基準として製品に標準配賦されている。月間基準操業度は 3,800 時間である。

問 1 仕掛品勘定を作成しなさい。(単位:円)

仕 掛 品	
直接材料費 ()	完 成 品 ()
直接労務費 ()	月 末 有 高 ()
製造間接費 ()	原 価 差 異 ()
()	()

問 2 以下の金額を計算しなさい。なお、() 内には、借方差異の場合は借方、貸方差異の場合は貸方と記入すること。

原価標準 (単位あたり標準原価)		円/単位
直接材料費の消費量差異		円 ()
直接労務費の直接作業時間差異		円 ()
製造間接費の予算差異		円 ()
製造間接費の能率差異		円 ()